

河童

麗らかな麗らかな、
うら

何ともかともいへぬ麗らかな、

実に実に麗らかな、

瑠璃晴天の日のくれに。

河童がぼつんと立つた、との。
かつば

麗らかな漣は漣に、
さざなみ

照り光り、照り光り、いつまでも照り光り、

まだまんまるい月も出ず、暮れもやらず。

悩ましい、何ともかともいへぬ麗らかな、

瑠璃色ぞらの夕あかり、

大河のあちらこちらを漕ぐ舟の

ろかいの音もうつらうつらと消えもやらず。

河童がぼつんと、ただひとり。

はつと思へば、またひとり、

岸にひらりと手をかけて、つらつらと

躍りあがった河童の子。

頭のお皿も青白く、

真実、れいろう、素つ裸
す ばだか

こゑも立てねば音もせず。

河童はそつとうなづきあひ、

葦の葉のそよ風に、
あし

身をふるはし、

よちよちと歩きかねては、また眼をこすり、

もつれあひ、角力とり、角力とり、まろびあひ、

倒れては起き、起きてはころび、

声も立てねば、音もなく、

れいろうとしてはてしもあらず。

麗らかな、麗らかな、

何ともかともいへぬうらかな、

瑠璃晴天の空あひに、

うかび出て、消えもやらぬ河童のお皿、

すすり泣けども人知らず。

麗らかな、麗らかな。
うら

漣の漣の、照り光り、照り光り、
さざなみ

暮れもあへねば、月も出ず。

いつまであそぶ河童の子。

つらつらと河童の子。